

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190900060		
法人名	株式会社ティーアート		
事業所名	グループホーム季楽里ふあむ		
所在地	佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿甲1879番地21		
自己評価作成日	令和3年11月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和3年11月22日	外部評価確定日	令和3年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者の生活空間を考えた採光であったり、リビングホールを中心とした各居室配置にしたことで入居者の安心感に繋がる配慮を考えた。その事でスタッフも利用者の気配を感じるにより、きめ細やかに、また瞬時に対応できる。昨年より2ユニットになったことで、日々の交流やイベントなどの参加により相乗効果がみられている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>2棟目が増設されて一年余り。規模は倍になったが職員間の連携は良い。代表者は「理念に基づきながら利用者との関わりが出来ている」と評している。職員が「これは利用者にとってどうか」と問う姿勢は日中の過ごし方にも表れ、計画通りではなく各々がやりたい事を支援している。選択肢を示す話し方では、例えば飲み物ひとつでも自分で選び楽しんでもらっている。「ここは良かよ」と話し掛けてくれた利用者からも窺える。また建物ではリビング・中庭テラスを中心に各居室が配置され、ドアを開けると誰かの姿が見える、声が聞こえるという安心感がある。代表者は現場の声に耳を傾け、職員も自由に発言しやすい職場環境である。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念を事務所に掲示し、毎朝朝礼時に唱和を行っている。利用者に対して常に念頭において対応できるように心掛けている。	企業理念を事務所に掲示し、毎朝朝礼時に唱和を行っている。利用者に対して常に念頭において対応できるように心掛けている。	「敬愛」「感謝」「献身」の心を基本理念とし、その下には利用者との接し方などを示す介護理念も掲げている。目に付く場所に掲示され唱和による意識付けも図っている。利用者との関わりの中で声のトーンや表情、言葉づかいにはそれが活かされているのが窺える。理念にあるように、「今日もいい一日だった」と思ってもらえるよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地区の班に入会しており、回覧板にて地域の情報を得ている。また、近所の方々との交流もあり、植木や生花の差し入れ等も頂いたり、近隣の散歩時には会話をするなど、交流を深めている。	地区の班に入会しており、回覧板にて地域の情報を得ている。また、近所の方々との交流もあり、植木や生花の差し入れ等も頂いたり、近隣の散歩時には会話をするなど、交流を深めている。	コロナ禍の現在、ボランティア等の訪問は規制され、事業所の行事も独自に開催している。だが、散歩の途中では近隣住民と挨拶を交わしたり、運営推進会議時には地元メンバーから情報も寄せられている。事業所では地域との繋がりを大切に、見守りや連絡を頼める関係は築いている。今後、回覧板を使った情報発信が出来ないものか検討中である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は地域への取り組みとして発信する媒体を検討中。	現在は地域への取り組みとして発信する媒体を検討中。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回実施予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大のため8月に実施予定だった会議は、10月に延期した。	運営推進会議は2ヶ月に1回実施予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大のため8月に実施予定だった会議は、10月に延期した。	会議は概ね一時間を要し、双方向な意見交換の場となっている。市担当者は代理でも必ず出席をし、家族にもその都度連絡を取り、参加をお願いしている。事業所からの報告にはヒヤリハット・事故事例も含まれ、ありのままを公表している。メンバーの派出所署員からは近隣の犯罪情報等が寄せられ、区を預かる役員には有益となっている。このようにメンバー同士が顔見知りとなることで互いに相談し合う場面もみられ、自己評価では、この会議を通して地域との繋がりが深まりが少しずつ増えていると答えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議への参加や運営推進会議への呼びかけを行い、協力機関との構築継続を実施。また保険者への介護保険の法令遵守についても随時問い合わせや確認を実施している。	地域ケア会議への参加や運営推進会議への呼びかけを行い、協力機関との構築継続を実施。また保険者への介護保険の法令遵守についても随時問い合わせや確認を実施している。	運営推進会議メンバーでもあり日頃から顔なじみである。他の会議等で顔を合わせることもあり、事業所の状況は伝えやすく、協働関係も築いている。相談事があれば直接出向いたり、電話やファックスも活用しながら実直に対応してもらえる関係である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束は行わない方針であるが、安全面を考慮し玄関は施錠している。ベッドからの転落防止についてはシルエットセンサー設置にて対応。身体拘束委員会の定期的な開催と事例検討会を行っている。	基本的に身体拘束は行わない方針であるが、安全面を考慮し玄関は施錠している。ベッドからの転落防止についてはシルエットセンサー設置にて対応。身体拘束委員会の定期的な開催と事例検討会を行っている。	入居契約時に指針の説明を行っている。殆どの職員は身体拘束の内容とその弊害を理解している。経験の浅い職員には、日頃の関わりが学びとなることもある。現在、玄関は常に施錠されているが、利用者の様子を見て一緒に外へ出ることもあり、行動を抑えることはない。仮に不適切なケアがみられた場合はまず本人に理由を尋ね、考えさせ、全体の事として提起するとしている。また止むを得ず実施する場合には、委員会にて止めるための工夫や方法を話し合うことになっている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は佐賀県グループホーム協会や交流会主催する研修会への参加と毎朝のミーティング・カンファレンスにて事例検討を行っている。	職員は佐賀県グループホーム協会や交流会主催する研修会への参加と毎朝のミーティング・カンファレンスにて事例検討を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、B棟に成年後見人制度を利用予定している入居者がおられ市町村役場と連携を取りながら進めている	現在、成年後見人制度を利用予定している入居者がおられ市町村役場と連携を取りながら進めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては利用者家族へ丁寧な説明を行い、不明な点については後日でも良いので対応するように実施している。	契約に関しては利用者家族へ丁寧な説明を行い、不明な点については後日でも良いので対応するように実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や行事に出席頂いた際や運営推進会議への参加時に意見や要望を伺い運営に反映させている。また施設サービス計画書の作成にあっても本人とご家族へ意向を確認している。	面会や行事に出席頂いた際や運営推進会議への参加時に意見や要望を伺い運営に反映させている。また施設サービス計画書の作成にあっても本人とご家族へ意向を確認している。	これまでは家族の来所時に世間話など交えながら想いを聞き取ることも多かった。現在は玄関ホールで距離を保ちながらの面会である。元々、毎月の利用料を送付する際にはホーム便りと共に近況も添えていたが、コロナ禍ではそれが家族の楽しみとなっている。なかなか来られない家族とは電話や通信アプリLINEを使つてのやり取りもある。今回の当外部評価アンケートには「安心して任せられる」「相談がしやすい」などが寄せられ、家族との良好な信頼関係が窺える。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の朝礼やカンファレンスを実施して利用者の日々の変化に対応出来るよう、スタッフ間で情報共有を行っている。また月に1回のミーティングや夜勤者ミーティングを開催することで業務の見直しや改善点を検討。ハード面での見直しを行う事でスタッフの業務軽減に繋げている。	毎朝の朝礼やカンファレンスを実施して利用者の日々の変化に対応出来るよう、スタッフ間で情報共有を行っている。また月に1回のミーティングや夜勤者ミーティングを開催することで業務の見直しや改善点を検討。ハード面での見直しを行う事でスタッフの業務軽減に繋げている。	毎月のミーティングはまずユニット毎に行い、続いて合同で開いている。休みの人の出席は各々に任せ、夜勤者は別途ミーティングがあり、発言や周知事項等の機会は公平である。申し送りノートの活用や会議内容の事前周知により、効率よく進むよう工夫している。カンファレンスは朝礼で行うため、ミーティングは業務改善など現場の声を出し合う場もある。最近では勤務毎の役割分担について見直されている。また代表者としては働きやすい職場であるよう配慮も必要で、職員には日頃から声を掛け、褒める時には名前を挙げて皆の前でを旨としている。管理者も同様に定時での帰宅を促し、休暇希望にも出来るだけ応えている。日々の記録にタブレット端末が導入されたことは職員の負担軽減になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表も日々の業務に係ることで職員の考えや対応を把握し評価に繋げている。管理者と密に連携を摂る事でスタッフの悩みや対応について共有している。	代表も日々の業務に係ることで職員の考えや対応を把握し評価に繋げている。管理者と密に連携を摂る事でスタッフの悩みや対応について共有している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来るだけ外部の研修や講演の機会をスタッフへ情報提供して機会を与えている。現在コロナ渦にあるため、リモートでの研修へ参加している。	出来るだけ外部の研修や講演の機会をスタッフへ情報提供して機会を与えている。現在コロナ渦にあるため、リモートでの研修へ参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	杵藤地区のグループホーム交流会へ積極的に参加を予定しているが、新型コロナウイルス感染を視野に慎重に検討している。	杵藤地区のグループホーム交流会へ積極的に参加を予定しているが、新型コロナウイルス感染を視野に慎重に検討している。		

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に本人や家族・関連機関から情報を取得して生活歴や背景・現状の把握と入居にあたっての対応を十分に検討して本人とのコミュニケーションを図りながら関係性を深めるよう努めている	サービス開始前に本人や家族・関連機関から情報を取得して生活歴や背景・現状の把握と入居にあたっての対応を十分に検討して本人とのコミュニケーションを図りながら関係性を深める様よう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に関連機関や事業所からの情報収集を行い、その後家族と面談を行い、現状の把握と意向を伺いスムーズな対応が出来るよう努めている。	サービス開始前に関連機関や事業所からの情報収集を行い、その後家族と面談を行い、現状の把握と意向を伺いスムーズな対応が出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前に家族に来所して頂き面談を行い、施設の方針やシステム・居住環境等を観て頂き、良好な関係性を築き上げた上で、納得して頂くよう努めている。	サービス開始前に家族に来所して頂き面談を行い、施設の方針やシステム・居住環境等を観て頂き、良好な関係性を築き上げた上で、納得して頂くよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは個々の利用者を尊重するスタンスを持ち、特性や問題点・ニーズを把握して関係性を深めるよう努力している。	スタッフは個々の利用者を尊重するスタンスを持ち、特性や問題点・ニーズを把握して関係性を深めるよう努力している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、出来るだけリモート面会や電話での面談が出来るよう工夫している。	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、出来るだけリモート面会や電話での面談が出来るよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一時的に新型コロナウイルス感染が収束してきたためご家族の了解を得て短時間の帰宅を試みたり、ドライブで自宅近くまで行って安心してもらう支援に努めている。	一時的に新型コロナウイルス感染が収束してきたためご家族の了解を得て短時間の帰宅を試みたり、ドライブで自宅近くまで行って安心してもらう支援に努めている。	入居時にはこれまでの人間関係の把握を行っている。情報は本人や家族、担当のケアマネージャーなどから集め、時には利用していたサービス事業所や病院関係者に尋ねることもある。それらを基に具体的な支援に努めている。コロナ禍でなければ盆正月の帰宅や墓参り、法事への出席も出来ていたはずである。未だ自粛と用心の日々ではあるが電話の取り次ぎはいつでも可能であり、家族と馴染みの美容院へ出掛ける利用者はあった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	イベントの開催や席替えを行うことで他者との関わりをマンネリ化せず、刺激ある関係性が築けるよう努めている。	イベントの開催や席替えを行うことで他者との関わりをマンネリ化せず、刺激ある関係性が築けるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの経過から入院や死亡退所となるケースが殆どであったため家族へのフォローが出来てない。	これまでの経過から入院や死亡退所となるケースが殆どであったため家族へのフォローが出来てない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者と常に会話の場を持ち、話題や社会の動き等の情報提供しながら本人の気持ちや希望を引き出すことで存在感が得られるよう努めている。	利用者と常に会話の場を持ち、話題や社会の動き等の情報提供しながら本人の気持ちや希望を引き出すことで存在感が得られるよう努めている。	自己評価では「ほぼ全ての利用者の意向を掴んでいる」と答えている。対話する時に心掛けている事は声のトーンや目線を合わせる、また選択肢を示す問い掛け方などである。居室を訪ね話し相手をしている時には特に、想いを話してくれることが多い。言葉数が少ない利用者とは飼っていたペットを話題にしてきっかけを作っている。聞き取った事はノートへの記入や朝礼時に伝え合い共有を図っている。そこからケアプランに反映させた例もある。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの利用機関やご家族からの情報を基にその都度サービス計画に反映させている。	これまでの利用機関やご家族からの情報を基にその都度サービス計画に反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	池田内科の往診やあらい歯科往診により、心身の状態把握と対応を行っている。	池田内科の往診やあらい歯科往診により、心身の状態把握と対応を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の更新や運営推進会議の実施により家族や必要な関係者と情報交換を行い、そこで得られた情報をもとに日々のケアに取り組んでいる。	介護計画の更新や運営推進会議の実施により家族や必要な関係者と情報交換を行い、そこで得られた情報をもとに日々のケアに取り組んでいる。	ケアプランの設定期間は、入居して間もない時期は毎月、その後、3か月、半年と移行予定だが、原則に捉われることなく臨機応変に対応している。プランは本人に合っているか、想いに沿っているかを日々のケアの中で確認し、家族の要望は電話での会話や運営推進会議等で顔を合わせた時に汲み取っている。サービス担当者会議にも同席してもらい、説明をし、一緒に話し合っている。また受け持ちはチーム制で、一人が不在でも互いにカバーできる利点がある。毎月、ケアマネージャーによるモニタリングも行われ、個別の実施状況はパソコン上で管理されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の朝礼や月一回のミーティングで利用者の情報交換を職員全体で行っている。その際ケア方法の統一を行い実践している。	日々の朝礼や月一回のミーティングで利用者の情報交換を職員全体で行っている。その際ケア方法の統一を行い実践している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節に伴う利用者の心理状況を汲み取り、自宅へ仏壇参りをするなど取り組んでいる。	季節に伴う利用者の心理状況を汲み取り、自宅へ仏壇参りをするなど取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を生かして公園でのおやつタイムなどに活用し、地域の景色を感じて頂ける機会を設けている。また、地域からのお弁当配達を利用している。	地域資源を生かして公園でのおやつタイムなどに活用し、地域の景色を感じて頂ける機会を設けている。また、地域からのお弁当配達を利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に池田内科の往診についてご家族、本人様へ説明を行い、2週間に一度の往診を同意の上取り入れている。また、外部の医療機関を利用する際の状態などの説明を池田内科から直接ご家族へするなど連携をしている。	入所時に池田内科の往診についてご家族、本人様へ説明を行い、2週間に一度の往診を同意の上取り入れている。また、外部の医療機関を利用する際の状態などの説明を池田内科から直接ご家族へするなど連携をしている。	現在は利用者全員が協力医をかかりつけとしている。元々、協力医の患者だった方、入居後に説明を聞き納得して変更した方など様々である。2週間に一度の往診は心強く、協力医に嬉野医療センターとの接点があることで他科診療もスムーズである。職員が受診に付き添う場合、家族への結果報告は当日中に行っている。また専門的な内容の場合は協力医が直接説明を行っており、家族からは安心感があると寄せられている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が常勤の為、介護職員からの情報を基に池田内科へ報告・相談し必要な処置・受診・検査を行っている。	看護職員が常勤の為、介護職員からの情報を基に池田内科へ報告・相談し必要な処置・受診・検査を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はソーシャルワーカーと連絡を取り合い、病状や退院の時期の把握を行っている。	入院中はソーシャルワーカーと連絡を取り合い、病状や退院の時期の把握を行っている。	/	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、池田内科の医師・看護師・ご家族・施設看護・介護スタッフと共に今後の方針を話し合う機会を設けている。開催時期の判断は医師の判断を仰ぐ。	重度化した場合、池田内科の医師・看護師・ご家族・施設看護・介護スタッフと共に今後の方針を話し合う機会を設けている。開催時期の判断は医師の判断を仰ぐ。	入居契約時に指針の説明を行っている。初めての看取りを経験し、今後も家族に寄り添いながら希望に沿いたいと考えている。容態の変化と共に家族の気持ちは揺れ動くことを踏まえ、話し合いは何度でも重ねる事とし、医師による詳しい説明もある。キーパーソンだけではなく近親者の同席も考えている。今後は勉強会に加え、例えば看取りの心構えや、いくつかの症状を示して接し方などを記した家族向け冊子の編集、またエンゼルケアについても検討する予定である。本人や家族が安心して納得した最期が迎えられよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に、施設看護師へ常に連絡を取れる状況を作っている。池田内科の医師と施設看護師が情報交換を行い必要な対応を行っている。	利用者の急変や事故発生時に、施設看護師へ常に連絡を取れる状況を作っている。池田内科の医師と施設看護師が情報交換を行い必要な対応を行っている。	/	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	グループホーム交流会にて認知症の方の避難や地域との助け合いを行う方法を検討している段階である。	グループホーム交流会にて認知症の方の避難や地域との助け合いを行う方法を検討している段階である。	年2回、昼間帯の訓練には消防署の立会もあり、利用者と一緒に避難を体験している。避難先に椅子があるとは限らず、日頃から屋外でのおやつタイムの折には敷物の上で座位を保てる時間等も検証している。職員は通報装置や消火器の使い方も承知しており、非常食や水、寒さを凌げる物の備蓄もある。訓練での反省点は速やかに改善し全員に周知も行っている。しかしながら細部を確認するとまだまだ検討・改善の余地がある。前回の外部評価後に作成した目標達成計画票では問題点や課題を挙げてはいたが、改善には至っていない。	閑静な住宅地に建つ事業所であり、非常緊急時には近隣住民の協力が不可欠と思われる。加えて、ハザードマップでは土砂災害警戒区域でもある。避難場所は地区公民館だが、その鍵を開けてくれるのは誰か、連絡方法は、移送はどうするのか等々、順を追って段取っていくと不備が見えてくる。あらゆるケースを想定していても足りないのが緊急事態である。検討中の課題に速やかに対処されることを期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護未経験者や介護経験者にかかわらず、面接や入社時に事業所の理念を伝え日々唱和し意識を高めるよう努めている。	介護未経験者や介護経験者にかかわらず、面接や入社時に事業所の理念を伝え日々唱和し意識を高めるよう努めている。	トイレや入浴の介助では羞恥心にも配慮しつつ、また入居して間もない頃は同性によるケアを本人にも確認しながら支援している。接遇の研修もある。理念にも「敬愛の心」があり、人生の先輩として敬いながら日々を関わりと謳っている。また個人情報取り扱いに対する職員の意識は高く、ホーム便り等への写真掲載や居室の名前表示には入居時に承諾を得ており、職員間のやり取りでは声の大きさにも注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	指定の物だけを提供するのではなく、必ず選択肢を作り、自己決定を尊重している。例えば飴の種類や飲料の選択等。	指定の物だけを提供するのではなく、必ず選択肢を作り、自己決定を尊重している。例えば飴の種類や飲料の選択等。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴拒否など見られた際は午前の予定を午後に変更したり、日にちを改めたりと本人様の希望に沿って支援している。	入浴拒否など見られた際は午前の予定を午後に変更したり、日にちを改めたりと本人様の希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪だけでなく、以前からヘアカラーをされていた方は定期的なカラーリングを行っている。	散髪だけでなく、以前からヘアカラーをされていた方は定期的なカラーリングを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の状態に応じ、調理場での野菜の切り込みや加熱、椅子に座って野菜の皮むきを職員と共に活動している。	利用者様の状態に応じ、調理場での野菜の切り込みや加熱、椅子に座って野菜の皮むきを職員と共に活動している。	対面キッチンからは調理の音や匂いがして食事時を知らせている。調理専門スタッフの配置は職員の負担減と、利用者との関わり増にメリットがある。献立は食材業者によるが、不定期ながら食レクの日があり利用者からのリクエストにも応えている。好き嫌いやアレルギー有無は把握され、苦手な献立・食材には代替えが用意される。出来るだけ自分で口へ運んでほしいとの思いから介助は最小限に留め、すぐに駆け寄れる位置から見守り、近寄って声掛けで促すこともある。歳を重ねる毎に身体機能が低下していくのは否めないが、出来る事で手伝いをお願いしている。また誕生日は当日(同月はまとめて)に祝い、ケーキも用意されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本委託業者より食材を調達してスタッフが調理しているが、利用者の咀嚼状態にあった形態に替え、嚥下状態をみて日々観察し対応している。	基本委託業者より食材を調達してスタッフが調理しているが、利用者の咀嚼状態にあった形態に替え、嚥下状態をみて日々観察し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けして洗面所で口腔ケアを行って頂いている。口腔ケアが一部困難な方については一部介助を行っている。	毎食後、声掛けして洗面所で口腔ケアを行って頂いている。口腔ケアが一部困難な方については一部介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄が自立された方は本人の意思を尊重しながら支援を行っている。	排泄が自立された方は本人の意思を尊重しながら支援を行っている。	排泄パターンを把握していることでタイミングをみた誘導・声掛けが出来る。自立した方も数名あるが、任せたままでなくさりげない見守りである。入居後の支援によりオムツ・パット類の使用枚数が減った方や、布パンツとパット併用が可能となった方などもあり、費用負担の軽減にも繋がっている。日中はトイレでの排泄を主とし、トイレ内には手すりや可動式ひじ掛け、座位が保ちやすい背もたれも設置され補助具として自立を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向にある方は水分の補給や腹部マッサージ・医師の指示による緩下剤の使用を行っている。	便秘傾向にある方は水分の補給や腹部マッサージ・医師の指示による緩下剤の使用を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	現状週3回の午前中入浴を実施している。介助には出来るだけ時間に余裕をもって関わり、リラックスして頂けるよう心掛けている。また入浴拒否の利用者については気持ちの変化や声掛けのタイミングをみて支援を行っている。	現状週3回の午前中入浴を実施している。介助には出来るだけ時間に余裕をもって関わり、リラックスして頂けるよう心掛けている。また入浴拒否の利用者については気持ちの変化や声掛けのタイミングをみて支援を行っている。	事業所には一般浴槽と特殊浴槽が備えられている。特殊浴槽の機能を利用する方はまだ少数だが、今後も見据えた設置である。脱衣場の手すりや安定感のある椅子、また冬場のヒートショック対策など安全にも配慮されている。入浴は週3回を目安としているが、風呂の準備は毎日できており、希望があれば応えられる。拒む方には職員のテクニックで対応し、個浴でゆっくりと寛いでもらっている。入浴しない日でも汚染があれば下着肌着の交換をし、清拭やシャワー浴も使い分けながら清潔保持に努めている。衣服の脱ぎ着は出来るだけ本人に任せ見守っている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息については利用者の状態や希望を伺いながらとって頂いている。就寝から入眠されるまでは室内の灯りの調整や声掛けなど静かな雰囲気を作り出す事を配慮し安心して睡眠がとれるよう支援している。	休息については利用者の状態や希望を伺いながらとって頂いている。就寝から入眠されるまでは室内の灯りの調整や声掛けなど静かな雰囲気を作り出す事を配慮し安心して睡眠がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	施設常駐の看護師が医療機関と適宜情報提供と連携を図りながら、利用者の状態に合わせた服薬支援を行っている。	施設常駐の看護師が医療機関と適宜情報提供と連携を図りながら、利用者の状態に合わせた服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年間を通してイベントを企画(お誕生会・季節イベント等)して実施。毎日10時にはお茶とお茶菓子を提供し寛いで頂いている。日曜日には菓子饅頭専門店から毎回変わったお饅頭を持ってきていただき、利用者もそれを楽しみにされている。	年間を通してイベントを企画(お誕生会・季節イベント等)して実施。毎日11時にはお茶とお茶菓子を提供し寛いで頂いている。日曜日には菓子饅頭専門店から毎回変わったお饅頭を持ってきていただき、利用者もそれを楽しみにされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナ感染も少し収まりつつあるため公園やコスモスが咲いている所を探してドライブを楽しんでもらっている。施設周囲の散歩は天気をみて出来るだけ毎日実施している。	新型コロナ感染も少し収まりつつあるため公園やコスモスが咲いている所を探してドライブを楽しんでもらっている。施設周囲の散歩は天気をみて出来るだけ毎日実施している。	コロナ禍では自粛ばかりであったが、少しずつ外出(ドライブ等)の機会を増やしている。目的地に人が多ければ降車を諦めることもある。天候や体調をみて当日に決まり出掛けることもあり、利用者にとっては外の空気に触れ、日差しを浴び、何よりの気分転換となっている。事業所周辺での散歩は日常的に支援され、車椅子対応車両もあり、外へ出ないという利用者はいない。また個別の外出希望には職員数など状況を考慮し、出来るだけ応えられるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はご家族の同意の下、事務所にて保管をしている。また、買い物は事前に購入物品をご家族へ説明したのち利用者様と買い物へ出向き、事業所が立替えをし、領収書と差し替えに料金の支払いを行っている。	金銭管理はご家族の同意の下、事務所にて保管をしている。また、買い物は事前に購入物品をご家族へ説明したのち利用者様と買い物へ出向き、事業所が立替えをし、領収書と差し替えに料金の支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現状では利用者様からの希望は聞かれていないが、ご家族からの電話などには積極的に事業所からも機会を作っている。	現状では利用者様からの希望は聞かれていないが、ご家族からの電話などには積極的に事業所からも機会を作っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の使用も行き慣れた場所の使用や、利用者様の状態に応じて場所の選択、手すりなどの改良を行っている。	共用空間の使用も行き慣れた場所の使用や、利用者様の状態に応じて場所の選択、手すりなどの改良を行っている。	事業所の特長は中庭のテラス(ウッドデッキ)である。日向ぼっこをしながらお茶を飲んだり、コロナ禍で直接の面会が厳しい時には家族が待機する場所でもあった。どの居室からもドアを開けるとリビング、そこから続くテラスが見え、誰かの姿が必ずそこにある。テラスからの自然光はリビングを明るくし、居ながらにして季節を感じることもできる。利用者の動線上に行動を妨げる物はなく、安心して動き出せる配置である。時間を決めて窓を開放する換気は居室も同様に行い、24時間換気扇のスイッチも各室にある。手を触れる箇所の消毒はこまめに行い、法人の営繕スタッフによる清掃が頻繁に実施されており嫌な臭気もない。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の 合った利用者同士で思い思いに過ごせる ような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士で会話が できるよう、各棟にソファを設置し ている。また、おやつや散歩時に各 棟を歩き来し、会話ができるよう機 会を設けている。	気の合った利用者様同士で会話が できるよう、各棟にソファを設置し ている。また、おやつや散歩時に各 棟を歩き来し、会話ができるよう機 会を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家 族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	入所時に使い慣れた家具を取り入 れたり、ご家族の写真を飾れるス ペースをもうけている。	入所時に使い慣れた家具を取り入 れたり、ご家族の写真を飾れるス ペースをもうけている。	居室に持ち込む品物は火気等の危 険物以外に制限はない。馴染みの 物を置き、居心地良く過ごしてもら えるよう支援している。仏壇を持つ方 には仏飯や花などのお供えにも配 慮している。A棟にはクローゼット、 B棟ではそれに似た縦長のタンスが 置かれ、整理整頓に役立っている。 ピクチャーレールに掛けられたボー ードには家族の写真など自由に飾る ことができる。掛け敷き布団は貸与で 定期的に交換・洗濯されるため清潔 である。家族が希望すれば居室で の宿泊も可能であり、看取りをした 家族が利用した例もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や 「わかること」を活かして、安全かつできる だけ自立した生活が送れるように工夫して いる	細かな動作(瓶の開封、飴などの袋 の開封)でも出来る事は利用者様に 寄り添い行って頂いている。また、 衣類の選択も季節に応じて利用者 様と共に衣替えを行っている。	細かな動作(瓶の開封、飴などの袋 の開封)でも出来る事は利用者様に 寄り添い行って頂いている。また、 衣類の選択も季節に応じて利用者 様と共に衣替えを行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓ 該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない